

報告書掲載データとWebコンテンツ

堀木真美子（公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター）

Site Report Data and Web Contents

Horiki Mamiko (Aichi Prefectural Center for Archeological Operations)

・発掘調査情報／Excavation surveys・Web DB／Web DB

1. 報告書掲載情報の活用

愛知県埋蔵文化財センターのwebサイトでは、主に日々の活動報告と報告書等に掲載されたデータの公開を行なっている。また、より多くの方々に、組織の存在を周知するためにツイッター、フェイスブック、インスタグラムの記事を毎日（土日は除く）投稿している。ここでは、サイト内のコンテンツのアクセス動向および各種SNSの反応について報告を行い、これからデータ発信のあり方を考える。

（1）報告書等に掲載された情報などの公開

報告書等に掲載された情報は、それぞれPDFを基本に公開されている。報告書、年報、紀要、各種チラシ類、説明会資料、広報誌などである。これらは、ダウンロードページからアクセスすることができる。他に、報告書・年報・紀要に関しては、ダウンロードページとは別に、それぞれの一覧表のページ「報告書PDF」「年報」「紀要」が設置してある。この年報や紀要是、各年の刊行物から遺跡や論考ごとに細分化したPDFを作成し、ファイル名や遺跡名、発行年などの情報をデータベース化している。そして個々のPDFは、関連する報告書のデータにデータベースを介して自動的に紐付けされ、それぞれの「報告書抄録」ページに表示される。また各種PDFのほかに、報告書に付随する遺構一覧や遺物一覧の公開も実施している。近年の当センターの報告書にはCDが添付され、その中に遺構一覧や遺物一覧な

どが格納されている。これらのデータは、報告書の一覧表（「報告書PDF」）にデータのダウンロードサイトへのリンクが貼り付けてある。CDに格納されているデータの種類は、エクセルファイルやCSV、各種Movie素材などである。Movieなど一部web上では表示できないデータもあるが、公開されたデータはできる限りweb上で公開することとしている。また遺構や遺物の一覧表をデータベース化することにより、遺構ごとの出土遺物を閲覧できるページ「遺構遺物一覧出力」というページもある。

報告書に掲載された写真類については、一般の方々への訴求力が大きいことや、展示会や郷土史などへの借用依頼があること、報告書掲載時にモノクロになってしまうことなどから、原本のカラー写真をweb公開している。これらの写真へのアクセスは、各報告書抄録からも可能であるが、より安易に写真を検索するために「遺跡アルバム」という専用ページを作成している。このページでは、遺跡名に縛られずに、「皿」や「犬」だけでも検索できるようになっている。そして、検索結果には、遺跡名が表示されるとともに、掲載した報告書の抄録ページへのリンクが表示される。また一部の遺物写真では、実測図の表示も可能となっている。

その他に、センターで所蔵している図書データの検索ができる「図書データ検索」ページ、各機関から送られてくる展示会の情報を入力した「展示会情報」ページ、「報告書抄録」、「遺構遺物一覧出力ペー

ジ」、「子供用コンテンツ：信長が夢見た城下町」などがある。

(2) 主なページのアクセス数について

webサイトの各ページのアクセス数を概観する。

まずトップページの変化を見る（図1）。2019年度では報告書のPDFが公開された4月やイベントの告知のあった7月や10月にカウント数が伸びている。しかし、ここ数年はほぼ横ばいとなっている。「図書データ検索」ページ、「展示会情報」ページに大きな変化はみられない。「遺跡アルバム」は、2018年度末以降、急激に増加している。いろいろな場でこのページを紹介する機会が得られたこと、一部の遺物に関して実測図を表示できるようになったことなどが増加の要因と考える。「子供用コンテンツ」については、2017年度まで季節によるヒットが見られたが、昨年からその現象は見られなくなった。これは、このコンテンツのトップページにフラッシュコンテンツが貼り付けたままになっているためであろう。フラッシュコンテンツの再生ができない状況でページを離れているためである。早急に改善をしたい。

次に報告書の抄録のアクセス数を見る。ここ数年、報告書の刊行数は年に2、3冊づつであるが、それによって抄録ページへのアクセス数が格段に増えているわけではない。ただしPDFが公開される春にアクセス数が伸びる傾向がある。また遺構遺物のデータベースである「遺構遺物一覧出力」は、抄録ページからしかアクセスできない仕組みになっているが、抄録ページの増減とは異なっている。これはアクセス数そのものが少ないためと考える。またこのページの告知ができていないことから、利用が伸びていないと考えられる。

(3) PDFファイルの関連ページについて

PDFのダウンロードの状況を見る。2016年度より奈良文化財研究所において「全国遺跡報告総覧」が開設され、愛知県埋蔵文化財センターの報告書PDFも登録を行なっている。図2に2016年度から2019年10月までのダウンロード数の変化を示す。棒グラ

フが当センターのホームページのログから得られた数、折れ線グラフが「全国遺跡報告総覧」からのダウンロード数である。年ごとに報告書のPDFが増加しているのにも関わらず、当センターからのダウンロード数が減少している。PDFの一覧表のページへのアクセス数はあまり変化がないのに対し、ダウンロード数はかなり減少している。一方「全国遺跡報告総覧」からのダウンロード数は順調に増加している。

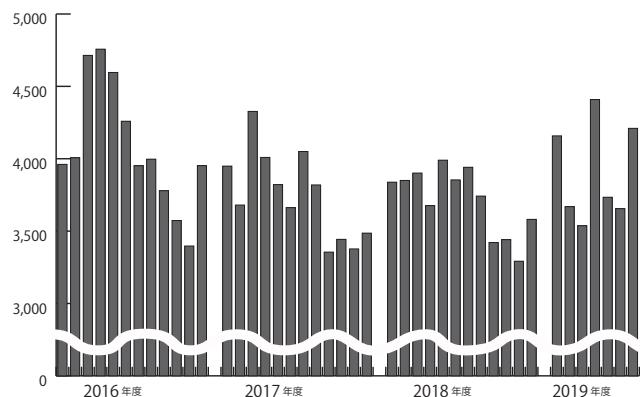
次に年報、紀要のPDFのダウンロード数をみる。紀要のPDFへのアクセス数は減少しているのに対し、年報のPDFはほぼ横ばいとなっている。2018年度6月に3年分のPDFを追加したため、増加しているように見られるが、この増加分を除けば、あまり増減がみられない。ただし、これらのPDFの一覧のページへのアクセス数は増加している。この一覧ページへのアクセス数の増加は、当センターへの関心の増加と捉えたい。しかし、PDFのダウンロードが伸びていないのは、それぞれ一覧で内容の確認を行なう上で「全国遺跡報告総覧」へ移行しているのかもしれない。

2. SNSの活用

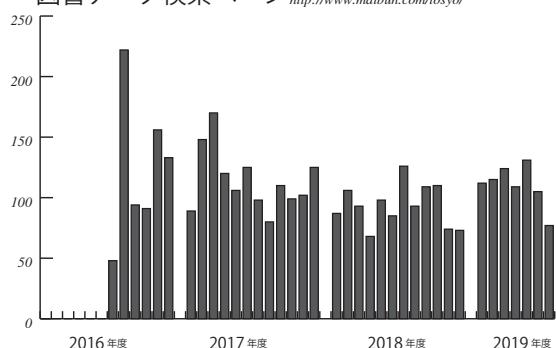
情報発信のツールとして、当センターでは、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックを活用している。これら3種類のSNSに、同じ記事を同日の同じ時刻に投稿している。記事は全職員が輪番で作成し、管理職を含む6人の委員会で記事の内容について決裁を取り公開している。ここでは、ツイッターとフェイスブックの、同一記事における反応の違いをみる。2019年11月現在、インスタグラムはフォロワーが10人程度、ツイッターは1,532名、フェイスブックは921名である。今回はフォロワーが少ないことから、インスタグラムの集計は実施していない。

それぞれの反応を比較するために、7月から10月の期間に投稿した記事の閲覧数変化を図3に示す。フェイスブックではインサイト画面からリーチ数

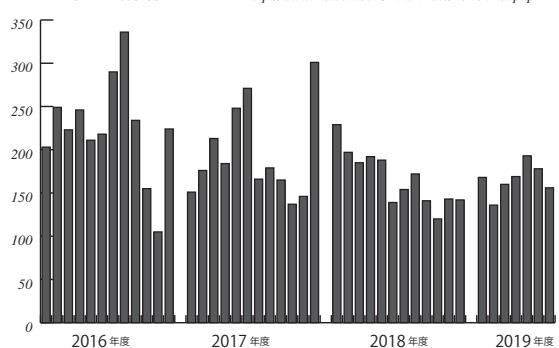
トップページのアクセス数の変化 <http://www.maibun.com/top/>



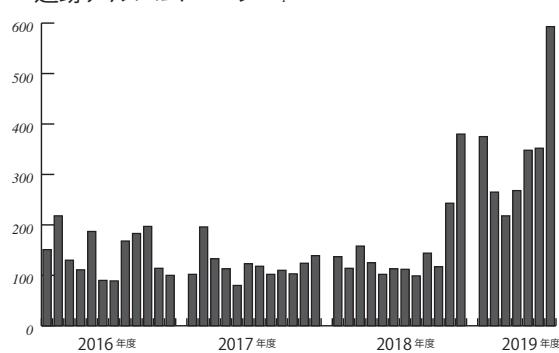
図書データ検索ページ <http://www.maibun.com/tosyo/>



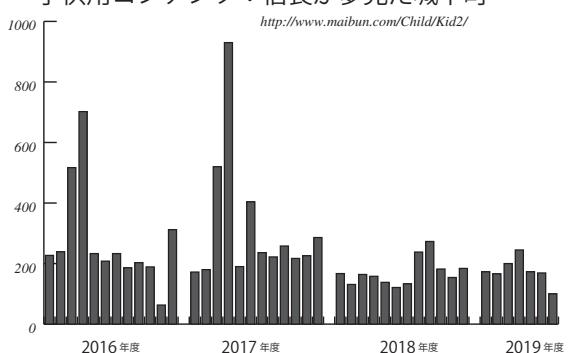
展示会情報ページ <http://www.maibun.com/KihonDate/newchiket.php>



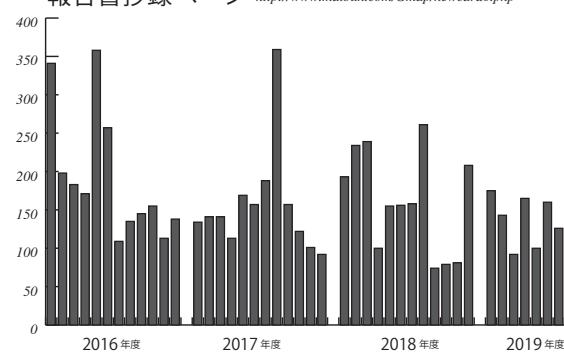
遺跡アレバムページ <http://www.maibun.com/KihonDate/album2/newindex.html>



子供用コンテンツ：信長が夢見た城下町



報告書抄録ページ <http://www.maibun.com/Gmap/newcard0.php>



遺構遺物一覧ページ <http://www.maibun.com/KihonDate/asahi7/>

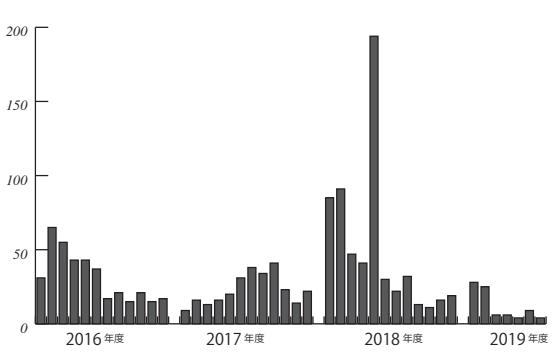
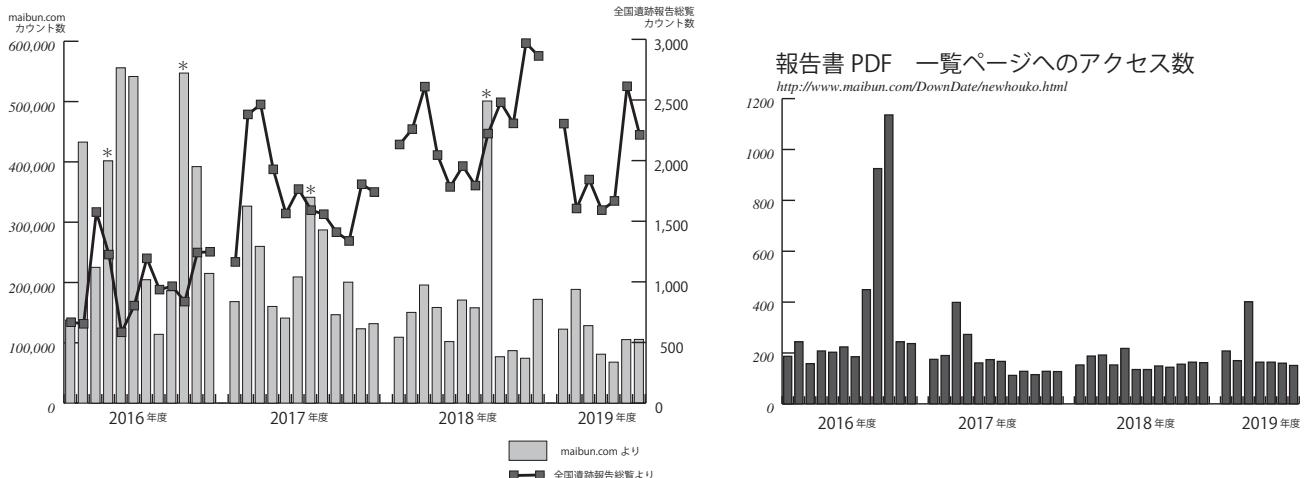
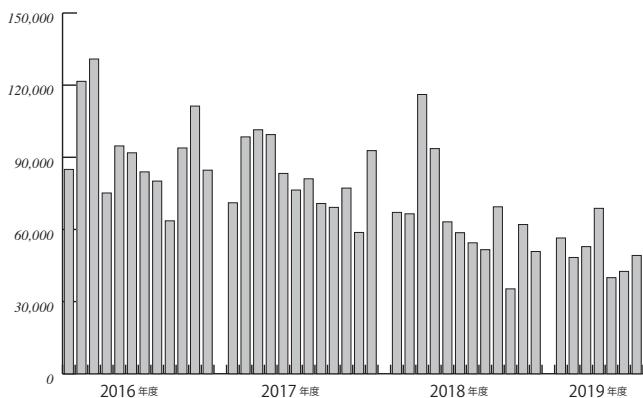


図1 webの各ページのアクセス数の変化

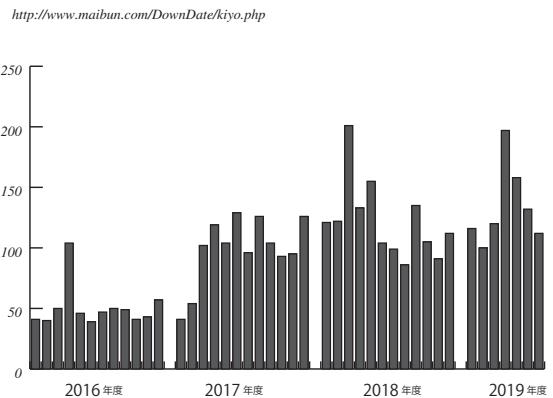
報告書 PDF のアクセス数の変化



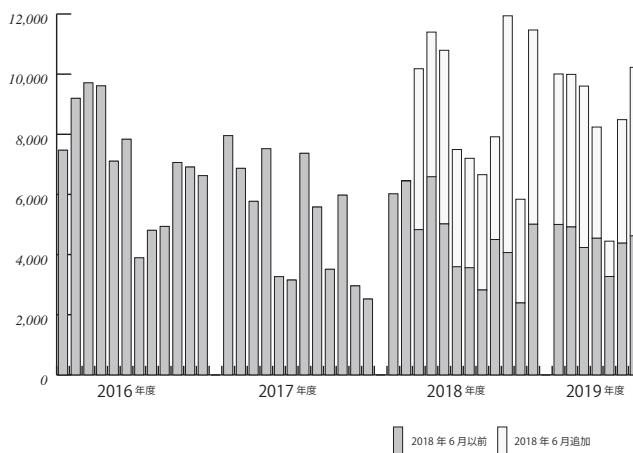
紀要 PDF へのアクセス数の変化



紀要 一覧ページへのアクセス数



年報 PDF へのアクセス数の変化



年報 一覧ページへのアクセス数

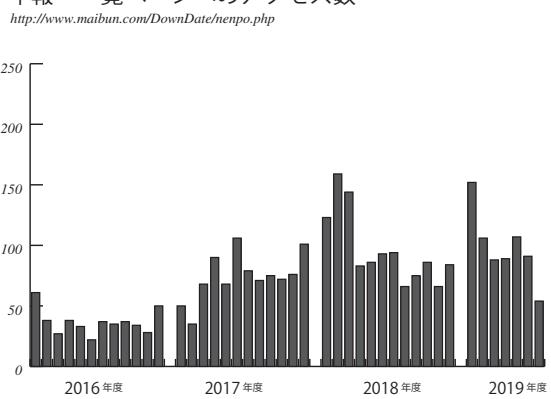
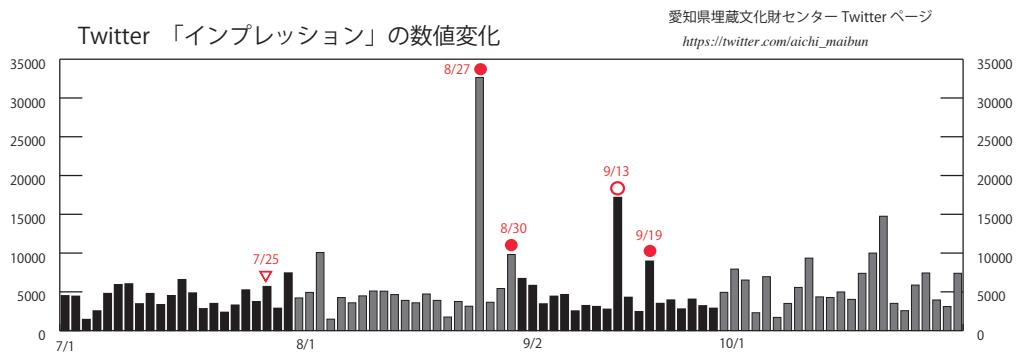
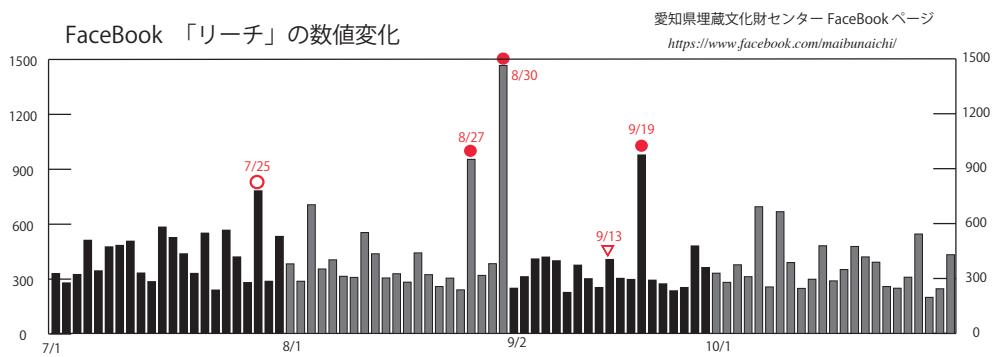


図2 PDFと一覧表ページのアクセス数の変化



FaceBook と Twitter で閲覧数が高い記事



▲8月 27日の記事



▲8月 30日の記事



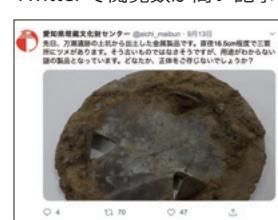
▲9月 19日の記事

FaceBook で閲覧数が高い記事



▲7月 25日の記事

Twitter で閲覧数が高い記事



▲9月 13日の記事

図3 FaceBook と Twitter 反応の違い

を、ツイッターではアナリティクスのツイートアクティビティ画面からインプレッションの数を、それぞれ集計し閲覧数とした。フェイスブックはサイトに登録した人しか閲覧することができないのに対し、ツイッターは誰でも閲覧ができるという、記事の閲覧に関する条件が異なっている。またツイッターの記事は、当センターのホームページでも表示されている。そのため、2つのグラフの縦軸の数値は桁違いになっている。またツイッターには、ハッシュタグはつけていない。数字の違いはあるが、反応の動向はほぼ同じである。2019年8月27日の記事では、山茶碗の向こう側に保護色をしたカエルが写り込んでいる。このカエルが語るような記事が書かれていた。次の8月30日の黒曜石を写した写真では、フェイスブックではカエルを抜いてヒットを記録したが、ツイッターでは大きくヒットしなかった。9月19日は戦国時代の薬研堀の溝の断面写真である。写真がダイナミックなためか、記事内に「織田信長」が入っていたためか、その原因は特定されていない。

これらのヒットが大きい記事に共通していることは、コメントがついたことである。コメントがつくと、利用者間で周知されるという仕組みから、当然の現象であろう。つまり、より多くヒット数を出すためには、コメントに対しできるだけ返信を行い、さらなるリアクションを促すことが重要と考える。

3. 情報の公開とSNSの活用のまとめ

これまで、愛知県埋蔵文化財センターでの報告書をはじめとする遺跡の情報の公開とwebの運用、SNSの利用について概観した。

webサイトのページにおいては、更新されていないページや、利用方法や告知が不十分なページへのアクセス数が減少していることが判明した。また報告書などのPDFについては、一覧表ページへのアクセス数は減少していないが、自身のサイトからのダウンロード数は減少していた。「全国遺跡報告総覧」

でのダウンロード数は伸びていることから、全てのPDFを「全国遺跡報告総覧」への登録することで、より一層の活用に繋がると考える。

また「遺跡アルバム」へのアクセス数が伸びていることから、報告書の掲載データを利用者が使いやすく提示することは必要性があると考える。「遺跡アルバム」は報告書掲載写真を、報告書の枠から取り出し情報を組み替えているページである。報告書のデータは、全てが揃っていて意味をなすものであるが、遺構や遺物の個々のデータでも単体で活用しうるものである。当センターのwebデータベースでは、遺構遺物のデータベースを構築しているが、本格活用には至っていない。今後「遺跡アルバム」という画像情報と、遺構や遺物の情報を結びつけた活用方法を模索してゆきたい。

また、組織の存在を周知させるためのSNSの活用では、より大きくヒットさせるためには、直感的な写真やコメントのやりとりが重要ではないかと推測された。今後はハッシュタグの活用など、より多くのフォロワーを獲得できるよう努力を積み重ねてゆきたい。一般の方々へのアピールを続けることは、地域の歴史文化への扉をアピールすることと同義であると考える。そのため、各地の関係諸機関は、文化財保護の観点からも、ぜひ知名度を上げてゆくべきであろう。

【参考サイト】

- 1) 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
公式サイト <http://www.maibun.com/top>
インスタグラムサイト <https://www.instagram.com/aichimaibun/>
ツイッターサイト：https://twitter.com/aichi_maibun
フェイスブックサイト <https://www.facebook.com/maibunaichi/>
- 2) 全国遺跡報告総覧：<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>